

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還） 53

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43851

海峽
マニラ
サ
合衆
（昭三三六二五）

昭三三六二五

1958. 8. 26

岸総理、原山下、マコト大使会談
録(抜粋)

総理 自分は提出する強い意向であると断られて差し支えない。
左様な気持で研究を督促してゐるし、又結論に達すればお知ら
せする。

大使 本件は決して自分の方からサジェストしている訳ではな
く、唯米困窮のいろいろ問題があるので通つていゝ次第である。

総理 良く分つてゐる。

大使 デリケートな問題であるが、ブライジイトに言及いたした
し。沖繩に因つて最近前進するところがあるが、これは同様に
を総理、外務大臣及び自分の間で内々選んだことが非常に役に
立つたと思う。沖繩問題は直接自分の主管外であつて、自分が
介入すれば関係軍当局はこれを不快とする訳であるが兎も角建

◎ ◎ ◎ ◎ ◎

設的な措置が必要であるといふことは認めさせるに至つたと思
う。しかるところ松野総務長官の沖繩行が新聞に伝えられ、長
官が経済的政治的に米軍の行政を調査改善するといふ風にい
れているので、軍当局は非常に怒つており、軍統の申請があれ
ば拒否すると思われる。

長官のプレスステイヂの問題もあるべきにつき今回は臨時国会
の準備等ならぬ理由で延期していただきたいと思います。

総理 長く分つてゐる。実は只今のお話より前、本日午後総務長官に臨時國會の閉会法案の準備等もありという事で、延期する様だ話をし、長官も承知してゐる。

大使 甚だ有難い。尚後日行かれる場合にもペブリンテイをして願いたい。自分も日本政府が沖繩に関心をもたれ、又これを示さなければならぬという事情をよく分つてゐる。今は行政権返還の時機ではないが、その時機に至るまで沖繩問題をうまく処理して行くことが反対党をして乗せしめない所以でもある。ワシントンにおいては外務大臣から沖繩問題の重要性を強調されたら良いと思う。

総理 今行政権返還を唯云つてみても意味がないが、沖繩問題は沖繩人八十万の問題でなく、九千万日本人に直ちに繋がる問題である点に一層の重要性がある。又反対党はこの点を利用して日米関係を刺戟する材料にしてゐる訳である。従つて、沖繩問題をうまく処理して行くことが必要である。

外務大臣 ワシントンにおいては、沖繩問題に関する日本人の気持、又日本政府が重要視する理由を強調するつもりである。

大使 沖繩に速べは成果が上げられると思う。経済問題にせよ日本として何か出来るかというよりなことで今後もお話して行きたく、総理も他日云われた様に沖繩人を満足させる様な措置をとつて行つて沖繩問題をうまく処理して行きたい。

次期開議機会において核実験停止に関して提案すべき日本側